

農林水産省におけるユニットプライス型積算方式の試行状況について

農林水産省農村振興局整備部設計課
施工企画調整室

1. はじめに

農林水産省農村振興局では、平成15年度から「農業農村整備事業等コスト構造改革プログラム」を策定し、直轄事業において、調査・計画段階から管理に至るすべてのプロセスを見直すコスト構造改革を、積極的に推進しております。本プログラムの主要な施策の一つである「積算の見直し」については、これまでの歩掛を用いた「積み上げ方式」から、歩掛を用いない「施工単価方式」への積算体系の転換に向けたユニットプライス型積算の試行に向け、管路工事を対象に、単価収集・調査及び施工単価（ユニット単価）等の分析・検討を進めています。そして、平成18年度より管径500mm以下の小口径の工事を対象として、試行工事を開始したところです。

本稿では、試行工事の状況、今後の進め

方等について紹介します。

2. ユニットプライス型積算方式による効果と流れ

ユニットプライス型積算方式の導入による効果は、以下の効果があり、受注者と発注者の両方にメリットが期待されます。

- ①価格の透明性、説明性の向上
- ②民間活力（創意工夫）の導入促進
- ③契約上の協議が円滑化
- ④工事目的物と価格の明確化
- ⑤積算業務の効率化

また、ユニットプライス型積算方式の概略の流れは、下図のとおりであり、総価で契約後、工事を工種（ユニット区分）単位に分け、発注者と受注者の間で、各ユニット（施工単価）区分ごとに単価を合意する総価契約単価合意方式となります。

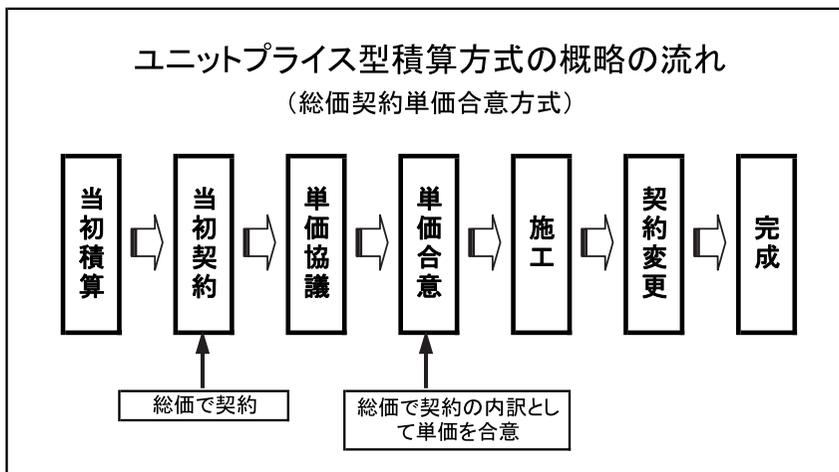


図1 ユニットプライス型積算方式の概略の流れ

3. 試行工事の実施状況

(1) 試行工事の概要

ユニットプライス型積算方式による試行工事は、農業農村整備事業において実施している工種のうち、最も施工実績の多い工種である「管水路工事」を対象としています。試行工事は、平成18年8月から平成19年3月末までに発注した「管水路工事」のうち、管径500mm以下の小口径の工事の中から6件を抽出して実施しました。

【試行工事の概要】

- 工事件数 6件
- 工事価格帯 平均4,000万円(3,000～5,000万円)
- 主な管種 塩化ビニール管、強化プラスチック複合管、ダクタイル鋳鉄管

(2) 試行結果の概要

試行工事を実施した6件のうち、条件を満足する5工事について、官側積算金額との比較を実施した結果、下記のとおり的事项が考察されます。

表1 試行工事の結果 官側積算金額と合意金額の比率

| 区 分 | 割 合 (合意金額/官側金額) | 備 考 |
|-----------|--------------------|-----|
| 工事原価 | 97.1% | |
| 直接工事費ユニット | 96.8% | |
| 間接工事費ユニット | 104.5% | |
| 一般管理費等 | 89.9% | |
| 工事価格 | 96.2% | |

*5工事分を集計

- 工事価格の官側積算金額と合意金額の比は、96.2%であり、積算方式の変更に伴う落札率への影響は見られませんでした。
- 工事原価の、官側積算金額と合意金額の比は、97.1%となっており、工事価格に占める割合が10%程度の一般管理費等の削減による落札差分を創出している傾

向は、見られませんでした。

4. 今後の試行予定について

平成19年度は、積算価格の透明性・説明性の向上や、積算業務の省力化をより実現するため、ユニットプライス型積算方式の導入工種の拡大に努めていくこととしています。試行工事については、平成18年度の試行結果を踏まえ、小口径に限定していた適用範囲を「大口径の管水路工事」へ拡大することで作業を進めています。また、「開水路工事」や「河川及び排水路工事」の試行に向けた検討も併せて行っています。

5. おわりに

これまでの積み上げ積算では、広く使用される工法を標準的な施工が行われた場合の労務、材料、機械等の規格や所要量を各々の工種ごとに設定したものです。一方、ユニットプライス型積算方式は、工事の実績に基づく単価を用いて、単価協議を行い、合意した単価に基づき実施されるものであり、より実勢に近づいた積算体系であると考えております。

また、ユニットプライス型積算方式の導入により積算作業が効率化されますので、品質確保等の取り組みに向けた業務へ、比重を置けるようになると考えております。

このことから、農林水産省としてユニットプライス型積算方式の試行について、試行実施件数の拡大及び新規工種の導入検討をはかり、より充実した積算方法となるよう進めていきたいと考えております。